

Art Watching

アートウォッチング

シャーナーメ

王書

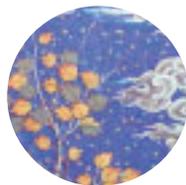
The Houghton Shahnameh
2 vols.
Harvard University Press, 1981.
45.5 cm × 31.0 cm



サーサーン朝の王ホスロー・バルヴィーズ (ホスロー 2 世) の宴の様子。
The royal party of Khusrau II of Sasanian Persia.



ライバルの妨害にあって宮廷に入れない名楽師パールバドが、木の上に隠れてリュートを演奏する様子。
Celebrated harpist Barbad, barred by a rival court musician, sneaks into the royal party and plays the lute in cypress top.



玉座を飾る植物紋様は、サファヴィー朝期の美しいタイル装飾や、現代に続くペルシア絨毯のデザインとも共通する。

The elegant vegetal arabesque embellishing the Shah's throne is typical of Safavid decorative patterns.



サファヴィー朝では中国磁器が好まれ、青花白磁など多くの磁器が描かれている。
Chinese porcelain such as blue-and-white ware was much favored by the Safavid dynasty.

本書は16世紀初頭のイランで、サファヴィー朝(1501 - 1736年)の王タフマースプ1世(在位1524 - 1576年)のために製作された『王書』の写本の精密複製です。『王書』は、11世紀に大詩人フェルドゥシーによって著されたイランの民族・英雄叙事詩です。その内容は世界創造からサーサーン朝(226 - 651年)の滅亡までに及びますが、正確な歴史書というわけではなく日本の『古事記』などに相当し、多くの神話や伝説を含んでいます。

タフマースプの『王書』は、流麗なナスタアリーク書体で記された物語に、精緻で色鮮やかな258枚もの細密画が添えられたもの

です。イスラームは、人物や動物の描写に対して否定的な傾向がありますが、実際にはそれぞれの時代の支配者や法学者などの解釈に任されていたため、造形美術が厳しく規制される時代もあれば、比較的緩やかな時代もありました。13世紀以後、写本絵画が発展し、何人もの王達が『王書』を含む多くの写本を製作させました。サファヴィー朝における当時最高水準の画家達によって描き出されたこの『王書』は、そういった写本の一大傑作と言っても過言ではありません。

ここに紹介するのは名楽師パールバドの物語です。

澤田結美 Yumi Sawada

This book reproduces the elegant nasta'liq-script calligraphy and luxurious miniatures of the sixteenth-century *Shahnameh* ("Book of Kings") executed by the first-ranked court artists under the guidance of Shah Tahmasp (r.1524 - 1576) of Safavid dynasty. The *Shahnameh* consists of verses based on the myths and the history of Persian

kings compiled by the Persian epic poet Firdowsi (ca. 934 - ca.1025).

Reproduced herein is from "Barbad the Concealed Musician." The prohibition against the representation of living things, considered to be a standard feature of Islamic thought, is quite different in secular art.

English abstract by Yasuko Fukuhara

Gallery Talk ギャラリートーク

私が見たアフガニスタン Afghanistan through My Eyes

山田利行 Toshiyuki Yamada



私のバーミヤン大仏との出会いは2001年6月に旅仲間の菅沼隆二さんからの依頼で「バーミヤン大仏 最期の姿写真展」を東京で企画、開催した時からである。その写真展は好評でアフガン関係者との交流が始まった。

2004年7月にアフガンを訪れる機会



東大仏跡と子供達 (2004年7月19日撮影)

東大仏窟は高さ38mの大仏のみが破壊され周辺にある石窟とトンネルは残されていた。東の大仏跡は子供達の遊び場だ。大仏様と周りにある窟を廻って、かくれんぼしていたのでは。世界遺産なんて知らないもん…。

Children by the East-Buddha Cave
(July 19, 2004)

が得られ市民の生活の場を撮影した。

首都カブールに入ると偶像を排斥する国とは思えぬほど大統領と故マスード将軍の大きな肖像画があちこちに飾られている。カブール博物館を訪問し、復興で賑わう街の様子を撮影。そして9人乗り飛行機で山嶺をすれすれに越えてバーミヤン空港に。バーミヤン渓谷を一望するとじゃがいもの花が満開、麦が青い。乾いた岩肌は夕陽で光り、東西の大仏龕跡は縦長に黒く染まっている。大仏跡やバザールの様子を撮影。景勝地バンデアミールでは赤ちゃんからおじいちゃんまで一族郎党をトラックの荷台に乗せて来る。一方、ロバに乗った家族が地雷原の中を近道してゆっくりと来る。旧都カンダハルでは歩道に素焼きの壺が置いてある。老人が蛇口から気化熱で冷たくなった水を飲み去って行く。一方、冷えたコークも売っている。そんな街の様子を写真展で見たい。

アフガンに発つ前に大統領候補者、軍閥のスポークスマンに会う機会があり「日本のような戦後復興と平和を願い二度と戦争を起こしたくない」という言葉を反故にしないように願っている。



早朝のバーミヤンバザール
(2004年7月21日撮影)

昔は大仏の近くにあったがバーミヤン川辺に移設された。野菜などは荷車に載せ、雑貨はトラックに載せて集まってくる。景気がよくなり2階を増築したのか外の梯子が目につく。

Early morning bazaar of Bamyan
(July 21, 2004)



朝の登校時間

(2004年7月20日撮影)

朝の登校時間に子供達があちこちの街から、山間から道路せましと湧いてくる。白いスカートに黒い服の女子が目立つ。歩いて行けるところに小学校が造られている。

Children on their way to school
(July 20, 2004)

[写真撮影 山田利行
Photographs by Toshiyuki Yamada]

My first encounter with the Great Buddhas of Bamyan goes back to 2001 Tokyo exhibition of their photographs taken by my friend Ryuji Suganuma prior to the tragic destruc-

tion. I myself had a chance to visit Afghanistan in 2004. I tried to capture daily activities of citizens and children in the cities and villages then reviving.

English abstract by Yasuko Fukuhara

企画展 Special Exhibition

～シルクロードへの誘い～バーミヤン大仏—カメラがとらえた爆破直前の姿—

Devastated Buddhas—The Great Buddhas of Bamyan before the Destruction—

2006年2月18日(土)～4月16日(日) Saturday, Feb. 18 to Sunday, Apr. 16, 2006

入館料 一般500円、小・中学生250円 会場 3階企画展示室

2階常設展示室、4階横浜都市発展記念館もご覧いただけます。

Admission ¥500 for adults, ¥250 for primary and junior high school students

ギャラリートーク Gallery Talks (in Japanese)

土日祝日春休み(3月21日～4月4日)14:00から30分程度 会場 3階企画展示室

Every Saturday and Sunday, and Mar. 21 to Apr. 4, 14:00-14:30

講師 菅沼隆二、山田利行、当館学芸員ほか 参加費 入館料のみ Free with museum admission

アフガニスタンの 平和と復興に向けての国際協力

廣瀬徹也 Tetsuya Hirose

第4号で紹介したように「民族と文明の十字路」アフガニスタンは多彩で豊かな文化を生み出すと同時に近代以降は常に大国の侵略と干渉にさらされてきた。1979年12月からソ連が軍事介入、内戦が続く。やがてターリバーン（神学生の意）が全土を制圧、その間、2001年3月イスラム教徒を含む世界の人々の願いも空しく、バーミヤンの大仏が爆破され、世界は大きな衝撃を受けたことは記憶に新しい。

アフガニスタンでは2001年秋、米英軍や北部同盟軍がアル・カーイダをかくまうターリバーン政権を倒し、米軍等の駐留の下、02年6月国民大会議ロヤ・ジェルガの開催、04年の新憲法制定と大統領選挙によって、カルザイ政権が成立、05年9月、下院議員選挙・県議会議員選挙が実施され、かくして国家統治整備のためのプロセスが完了した。国際社会の支援も得てようやく安定と復興に踏み出した。周辺国に流出した難民が過去4年間で440万人帰国した。国連と日本が主役となって、かつて跋扈した軍閥の兵士たち63,000人の武装解除・動員解除を完了させ、うち60,000人が社会復帰の過程にある。代わって新たな国軍が創設され治安維持にあたるが、それにもかかわらず、現在も各地で残存武装勢力による爆発物を用いたテロ、襲撃、誘拐、軍閥間の抗争、あるいは強盗等の一般犯罪が頻発している。35



授業中（カブール/2004年7月/撮影 山田利行）
In class (Kabul/ July, 2004/ Photograph by Toshiyuki Yamada)

年前私はパキスタンのペシャワールからアフガニスタンのカブールまで陸路カイバ峠を越えたことがある。やとったタクシーは1930年代のぼんこつメルセデス。30分おきに運転手と二人で小川において水をくみラジエーターを冷やすのどかな旅であった。今やパキスタンとの国境地帯は残存武装勢力の隠れ家である。

下院249議席のうち、68議席が女性に割り当てられるなど女性の地位の向上がはかられており、外国の支援で、教育や医療の改善、インフラの整備も徐々に進んでいる。ターリバーン時代は許されなかった女生徒が就学したこともあり、学校で学ぶ生徒数は90万から500万に急増した。数百の病院や診療所が建設・改修された、それでも一人あたりGDP228ドルのアフガニスタンは世界の最貧国の一つであり、死亡率は未だ世界でも最高の水準にある。麻薬問題の解決はアフガニスタンにとっても、国際社会にとっても最重要課題の一つである。アフガニスタンのアヘン生産量は世界の生産量の87%を占め、同国の総所得の60%が麻薬関連であると言われており、麻薬対策の鍵となる代替生計支援においては地域共同体毎の開発支援が重要である。

去る1月31日と2月1日ロンドンでアフガニスタンに関する国際会議が開かれ、約70の国と国際機関の代表が参加、アフガニスタン政府が示した治安の改善、貧困撲滅、麻薬対策などを盛り込んだ国家開発戦略を後押しするために5年以内に総額105億ドルを援助することを確認した。日本政府は2001年以降これまでに総額約10億ドルにのぼる人道支援、政治プロセス、治安の改善、麻薬対策、インフラ（幹線道路・二次道路等）整備、保健・医療、難民・国内避難民の再定住、教育、農業・灌漑などの面での支援を行ってきた。ユネ

スコを通じて、バーミヤン遺跡保存事業に対する支援も実施している。また民間団体による支援も行われている。

ユーラシアのかなめアフガニスタンを二度と世界の危険地帯としないために、国際社会は今後も引き続いて協力しなければならない。

With the parliamentary and provincial council elections successfully held on 18 September, 2005 and the inauguration of a new parliament, Afghanistan has completed its post-conflict transition after a U.S.-led coalition toppled the Taliban regime in 2001. In the last four years about 4.4 million refugees have returned home. School enrollment has soared from 900,000 to 5 million. Many of those pupils and students are girls attending classes for the first time in nearly a decade after being banned by the Taliban. Hundreds of hospitals and medical clinics have been built or refurbished with the

assistance of international community. Yet Afghanistan has one of the highest mortality rates in the world. The security situation continues to be endangered by the recent terrorist attacks and kidnappings, etc.

A conference on Afghanistan was held on January 31 and February 1, 2006 in London. Nearly 70 nations and international organizations pledged \$10.5 billion to help the National Development Strategy of the Government of Afghanistan for improvement of security, governance, economic and social development and counter-narcotics. International cooperation for peace, normalcy and reconstruction of Afghanistan must be continued.

廣瀬徹也 Tetsuya Hirose

アジア・大平洋国会議員連合中央事務局事務総長。元駐アゼルバイジャン大使。Secretary-General, the Central Secretariat of the Asian-Pacific Parliamentarians' Union. Retired ambassador.

Special Exhibitions and Events

展覧会・イベントのご案内

講演会 Symposium

アフガニスタンの今を語る
Afghanistan Today (in Japanese only)

2006年4月8日(土) 10:30~16:10

Saturday, Apr. 8, 2006, 10:30-16:10

会場 横浜市開港記念会館講堂
横浜市中区本町1-6

プログラム

「バーミヤン大仏の最期を撮る」

講師 菅沼隆二

「文化財研究所によるバーミヤン遺跡保存事業」

講師 岩井俊平（東京文化財研究所特別研究員）

「私の見たアフガニスタン」

講師 山田利行（山田利行研究室）

「大仏破壊とビンラディン」

講師 高木徹（NHK報道局ディレクター）

「アフガニスタンの復興と平和」

講師 レシャード・カレッド（カレーズの会理事長、医師）

受講料 1000円 定員 450名
申込み 住所、氏名、電話番号を明記の上、郵便または電子メールでお申込みください。1通につき2名様まで。お申込み順に受付票をお送りします。
申込み先 横浜ユーラシア文化館講演会係
〒231-0021横浜市中区日本大通12
info@eurasia.city.yokohama.jp
締切り 定員になり次第締切り。
受付は2006年3月24日(金)まで。

Place : Yokohama Port Opening Memorial Hall
Admission: 1000 yen
Application: Contact the Yokohama Museum of EurAsian Cultures by e-mail (info@eurasia.city.yokohama.jp) or mail (12 Nihon Odori, Nakaku, Yokohama), and make sure to include your name, postal address and phone number so that we can send you a ticket. Application (two persons max per appli-

cation) will be accepted on a first-come-first-served basis until Friday, March 24.

アート&グルメ Art & Gourmet

横浜ユーラシア文化館プロデュース アートな香り・清芳午餐 Part 1

横浜ユーラシア文化館が中華街の素敵なおレストランとコラボレート。パーミヤンの仏教遺跡にちなんだスペシャルメニューをご用意しました。4月14日(金)までにご利用の方には、本企画展の入館割引引換券を差し上げます。

清芳午餐 2000円(税込み)

1日限定50食 前日までに要予約

期間 2006年2月27日(月)~5月26日(金)

第2火曜日を除く平日11:30~15:00

場所 菜香新館 横浜市中区山下町192

ご予約 横浜ユーラシア文化館

Tel. 045-663-2465 Fax. 045-663-2454

横浜ユーラシア文化館休館日にもランチはご利用いただけます。

ミュージアムで遊ぼう! Part2 Special Event

ボクを探して! 2F

The Year of the Dog in EurAsia

2006年4月18日(火)~9月24日(日)

Tuesday, Apr. 18 to Sunday, Sep. 24, 2006

ボクはイヌ、5000年ぐらい前に西アジアのほうで作られたお守りなんだ! 今はこの横浜ユーラシア文化館で暮らしている。展示室でボクを探して、スケッチしてみないかい?

Hi! I am Dog approximately 5000 years old.

Come see me in the Yokohama Museum of EurAsian Cultures where I now live.

参加費 入館料のみ

Free with museum admission



利用案内 Visitor Information

横浜ユーラシア文化館

Yokohama Museum of EurAsian Cultures

〒231-0021 横浜市中区日本大通12
12 Nihon Odori, Nakaku, Yokohama, Japan 231-0021
Tel. 045-663-2424 Fax. 045-663-2453
<http://www.eurasia.city.yokohama.jp/>

開館時間 9:30 a.m.~5:00 p.m.

(入館は4:30 p.m.まで)

休館日 毎週月曜日・年末年始

入館料 一般200円

小・中学生100円

企画展開催時には別料金になることがあります。

毎週土曜日は小・中学生、高校生無料。
「障害者手帳」横浜市の「長寿のしおり」等をお持ちの方には、入館料の減免制度がありますのでお尋ね下さい。

Hours 9:30 a.m.~5:00 p.m.

(Admission until 4:30 p.m.)

Closed Mondays and year-end/
New Year's recess

Admission ¥200 for adults

¥100 for primary and
junior high school students



Map in English → Website

交通アクセス

みなとみらい線日本大通り駅3番出口から徒歩0分
JR関内駅南口・市営地下鉄関内駅1番出口から徒歩約10分
Zero min. walk from Nihon Odori Sta. on the Minato Mirai Line.
10 min. walk from Kannai Sta. on the JR Line or Municipal
Subway.

お知らせ Information

イベントのご案内は、携帯サイトでもご覧いただけます。

www.eurasia.city.yokohama.jp/



News from EurAsia No.5

横浜ユーラシア文化館ニュース第5号
企画・編集・発行 横浜ユーラシア文化館 2006年3月15日
デザイン/南オフィスエルク
印刷製本/ソルミ印刷株
禁無断転載
©2006 Yokohama Museum of EurAsian Cultures

News from EurAsia

横浜ユーラシア文化館ニュース

目次 Contents

アートウォッチング p.2

Art Watching

王書(シャーナーメ)

The Houghton Shahnameh

ギャラリートーク p.4

Gallery Talk

私が見たアフガニスタン

Afghanistan through My Eyes

山田利行 Toshiyuki Yamada

アフガニスタンの平和と復興に向けての

国際協力 p.6

International Cooperation for Peace,

Normalcy and Reconstruction of

War-Stricken Afghanistan

廣瀬徹也 Tetsuya Hirose

展覧会・イベントのご案内 p.7

Special Exhibitions and Events

利用案内 p.8

Visitor Information



no. 5

横浜ユーラシア文化館
Yokohama Museum of EurAsian Cultures